

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！▶

ネットワーク

特集

気候変動とわたしたちの未来

- 編集部スタッフも勉強してみた！
けっきょく、何をどう心がけたらいいんだろう？
- 若者たちの「声」 地球温暖化に関するアンケート調査より
- 寄稿 高尾文子 青年環境NGO Climate Youth Japan副代表





たくさんの種類があるスパイスキット。カレーの他にチャイなども。



このコーナーでは、
毎回一つの団体取材し、
活動内容やそこで活動
するボランティアさんの
生の声をお届けします。

スパイスをきっかけに バン格拉デシュ・インドの 子どもに心を寄せて

～認定NPO法人ESAアジア教育支援の会～

ネットワーク 編集部

いい匂いが漂う建物の一室に入ると、様々なスパイスを真剣な眼差しで、計量したり袋詰めしたりするボランティアさんの姿。本格的なスパイスから作るカレーキットをきっかけに、バン格拉デシュやインドという南アジアで暮らす子どもたちの教育支援に繋げる活動を行う、「認定NPO法人ESAアジア教育支援の会」（以下、ESA）に伺いました。いい匂いに包まれる室内、初めて見る様々なスパイス、美味しそうなカレーレシピなど五感を使って感じたことをレポートします！

カレーをスパイスから作ったこと、 ありますか？

カレーを食べたいと思ったとき、皆さんはどうしますか？ カレールーを使って作ったり、街中にあるカレー屋さんに行ったり。最近ではレトルトカレーもたくさんの種類があります。カレーをたくさんさんのスパイスを使って作ったことがある方は少ないのではないのでしょうか。スパイスの準備が大変だったり、工程がたくさんあったり作ってみたいと思っても難しいと思う方が多いかと思えます。ESAではカレー作りに必要なスパイスと分かりやすいレシピが

セットになったキットを作成販売しています。キットに入っているスパイスはカレーに応じた8種類から15種類程度。そのスパイスを計量したり袋詰めしたりするのはボランティアさんです。スパイスのレシピに応じて必要なスパイスを用意し、必要量を計量、袋詰めをするのがボランティアさんに任せられた一連の作業です。

和気あいあいと楽しく、そして真剣に

スパイスの量はカレーの味を決めるためにも重要です。少し量が違うだけで味が全く異なるそうです。レシピも現地の方の声を基にし



たくさんのスパイスをそれぞれのカレーごとに決められたスパイスレシピをもとに分類・計量する。作業は全て手作業。



スパイスの選別、計量、袋詰め、カレーレシピの封入など役割分担をしながらスパイスカレーキットを完成させる。

自宅でバターチキンカレーとタンドリーチキンをスパイスキットを使って作ってみました。はじめは半信半疑で美味しく作れるのか不安でしたが、スパイスの香りとコクが深い美味しいカレーとタンドリーチキンを作ることができました！



バングラデシュ・インドの子どもの笑顔の写真が壁に飾られている作業室は、とても明るい雰囲気です。皆で楽しく活動している。



どんなきっかけであっても、団体を知る、活動を知るといことは大切です。ESAでは、美味しいカレーをきっかけにして団体を知ってほしいという思いも込めて、日々丁寧にスパイスカレーキットを作成しています。

美味しいスパイスカレーをきっかけに、ESAを知り、ESAがバングラデシュやインドでどういう活動をしているのか、ボランティアさんや団体の思いを感じながら、作って食べるスパイスカレーは、きっと、より一層美味しく感じることでしょ。編集部でも実際にそれぞれ自宅で作って食べてみました！

カレーをきっかけに

て、たくさんの試食を重ねて完成しました。そんなスパイスに向き合うボランティアさんは真剣な眼差しです。一方で、井戸端会議のように和気あいあいと地域情報や子育て情報の交換で盛り上がる時間もあり、メリハリのある活動風景がありました。そんな雰囲気は魅了されて、長くボランティア活動を続けている方々がたくさんいます。

ここまで読んでくださった方は、ESAを美味しいカレー作りのためのスパイス屋さんのように感じた方が多いのではないのでしょうか。ESAはバングラデシュ・インドで暮らす子どもたちの教育支援を行っています。現地の学校の教育環境改善のための支援やどんな境遇の子どもでも教育が受けられるようにする支援や現地の学校の教育環境改善のための支援などを現地と協力しながら取り組んでいます。



【マンスリーサポーター】

直接学校教育を支援する教育サポーター、栄養改善に特化した給食サポーターがあります。

【ワンタイム寄付】

お好きな時にお好きな額のご寄付を常時募集しています。



ベンガルビーフカレー・スパイスセット ¥500



タンドリーチキン・スパイスセット ¥300



チャイ用スパイスミックス ¥500

【カレースパイスの購入】

現地で毎食食べられているスパイスカレーを日本の家庭でも手軽に作れるよう、オリジナルスパイスミックスを製作販売しています。3袋の購入で、子ども1か月分の教育支援になります。

カレーはチキンカレーや豆カレーなど7種類、タンドリーチキンミックス、チャイスパイスミックス(各4~5人前)を¥300~¥500でオンライン販売しています。ご注文はQRコードから！



ESAの事務局長を務める辻丹美さんからの団体紹介です。

私たちESAはバングラデシュやインドの村落部で、発展から取り残され、学ぶことが容易ではない子どもたちのために学校教育を40年以上にわたり提供し続けています。

子どもたちの学ぶ権利を守り、子どもたちが学ぶことによって一人ひとりが自分自身の力で夢と希望を持って生きていくことができる地域社会の実現を目標にしています。紅茶農園や農村、児童養護施設などの1,400人あまりの子どもたちへの支援活動の中心は、賛同して下さっている方お一人おひとりのお力です。活動への参加には様々なかたちがあります。詳しくはESAのホームページ(右記QRコード)をご覧ください。



ESAではユニークな支援方法があります！その名は、「カレスク」です。

「カレスク」は毎月1,000円の寄付をすると、その返礼として毎月違ったスパイスが1袋ずつ届くスパイス付き教育支援サブスクリプション。この「カレスク」限定のカレーもあり！詳細とお申込みは右記QRコードをご覧ください。



美味しいカレーを食べた後やESAをもっと知りたくなったとき、実際にボランティア活動に参加してみることもできます。事前登録が必要です。詳しくはQRコードをご覧ください。



例えば、こんなボランティア活動ができます。

【スパイスボランティア】

毎週月・水・金の3~4時間でスパイスミックス製作。様々なスパイスの袋詰め作業を4~5人で楽しく行っています。

【事務ボランティア】

翻訳絵本の印刷、発送や様々な事務作業のボランティア。

深める

ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。

特集

気候変動とわたしたちの未来

- 6 編集部スタッフも勉強してみた！
けっきょく、何をどう心がけたらいいんだろう？
- 9 若者たちに「地球温暖化」について聞いてみました！
～地球温暖化に関するアンケート調査より～
- 11 寄稿 気候変動とわたしたちの未来
◇高尾 文子 CYJ副代表・COP27事業統括、国際基督教大学(ICU)3年
- 15 TVAC相談窓口から 1年間の相談を振り返って(2022年度)

知る

ボランティア・市民活動のさまざまな形や
ボランティアに一步ふみだすヒントをご紹介します。

- 1 思い立ったがボラ日
スパイスをきっかけにバングラデシュ・インドの子どもに心を寄せて
◇認定NPO法人 ESAアジア教育支援の会
- 19 せかいを見る⑤
子ども達、にふさわしい世界を
◇大江 浩 社会福祉法人 賛育会
- 22 映画と市民 第23回
人種差別への静かな闘いと相互理解と 『グリーンブック』
◇瀧澤 利行 茨城大学教育学部教授
- 23 TVAC News 連載 vol.8 東京ボランティア・市民活動センターの事業から
いのちやくらしを災害から守るために
- 25 いいもの みい〜つけた！ Vol.43
多言語でサポート 中学数学・理科学習用語集
◇認定NPO法人 多文化共生センター東京

ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。

東京都社会福祉協議会指定保険代理店
有限会社 東京福祉企画
TEL : 03-3268-0910 FAX : 03-3268-8832
<http://www.tokyo-fk.com/>



表紙のことば

水が大地から空から いのちをもたらします。
時に優しく、時に荒々しく、まるで私
喜びのように、悲しみのように、まるで私たち

—フローラル信子



特集

気候変動と わたしたちの未来

桜の季節も、猛暑の訪れも、昔よりずいぶん早くなったような気がする。
台風や豪雨、以前はこんなに頻繁じゃなかった……。

「地球温暖化」という言葉が叫ばれるようになって久しく、
人間の活動によって空気中のCO₂が増えていること、
それによって地球の気温が少しずつ上がっていること、
北極の水が溶けてシロクマが絶滅しかかっていることなど、
いまでは誰もが、どこかしらで耳にしたことはあるでしょう。

でも、正直、それ以上のことはあまりよくわからない。
このままいくとどうなってしまうのか。
どうしてそうなるのか。
けっきょく、何をすればよいのか……。

今回はそうしたことを、
みなさんといっしょに考えてみたいと思います。

また、この問題の「いちばんの当事者」ともいえる、
これからこの地球で生きていく「若い世代」の声を集めてみました。
ぜひ、その声に耳を傾けていただきたいと思います。

編集部スタッフも勉強してみた！

けっきょく、何をどう心がけたらいいんだろう？

地球温暖化をはじめとする環境の問題について、編集部スタッフそれぞれに、日頃から思うことがあったようです。が、この企画をすすめるにつれ、いろいろな疑問がわきあがり、知識が足りないことに気づかされました。そこで、あらためて勉強してみよう！ということで、本を読み、ウェブサイトをめぐり、あれこれを整理してみました。いくつかのトピックに関しては、本誌編集委員・江尻京子さんからアドバイスをいただきました。



江尻京子さん。
NPO法人 東京・多摩
リサイクル市民連邦 事務局長。

※この記事を書くにあたっては以下の本を参考にしました。

- ・『図解でわかる 14歳から知る 気候変動』2020年 インフォビジュアル研究所 / 太田出版
- ・『カーボンニュートラルの経済学 2050年への戦略と予測』
2021年 小林光・岩田一政 日本経済研究センター / 日本経済新聞出版
- ・『地球に住めなくなる日「気候崩壊」の避けられない真実』2020年 デイビッド・ウォレス・ウェルズ / NHK出版
- ・『環境にいい買い物戦略 [50WAYS エコブックシリーズ]』2009年 シアン・ベリー / ガイアブックス 他

※文中 Q1 Q2 などとある箇所にはリンク先へのQRコードがあります(次ページ)。

なぜ環境問題が深刻な問題になってきたの？

2022年11月、世界人口は80億人を超えましたが、ほんの200年前、人類は10億人ほどしかいませんでした。加えて、産業革命以降人類の生活レベルが爆発的に向上したため、現在、人類が放出するCO₂(二酸化炭素)の総量は200年前の700倍にまで増えていきます^{Q1}。地球の気候システムから見れば、ほんの一瞬のできごとでした。

温室効果ガスであるCO₂が急増(図1)することで、地球の平均気温はすでに**1.15℃上昇**しましたが¹、その結果世界中で洪水、干ばつ、山火事が常態化し、日本では豪雨災害が多発しているのはご存知のとおりです。それらに加えて、今後は「海面の上昇」や「感染症の増加」、「気候難民の増加」、「食糧危機」など、新たなリスクも予測されています。ある意味「非常事態」であると言うことはできるでしょう²。

そもそも「脱炭素」ってなに？ なぜ炭素が問題なの？

調理器具から照明、冷暖房、上下水道、各種乗り物に至るまで、私た

ちはさまざまな「文明の利器」に依存していますが、これらを動かすためには必ず**エネルギーが必要**です。また、どんな生活物資でも製造するにはエネルギーが必要です。

結局、人類は、その大部分を石油をはじめとする**化石燃料**に頼ってきました。化石燃料は燃やすことによつて簡単にエネルギーを取り出すことができますが、その際必ず、燃料中の炭素からCO₂が発生します。結果として「地下深くに眠っていた炭素を掘り出して、温室効果ガスとして大気中に放出する」形になってしまっており、問題はこれ。

たとえば薪を燃やしてもCO₂は出ますが、その炭素はもともと樹木が空気中のCO₂等から吸収したもので、それが大気に還っていくだけ(いわゆる「**カーボンニュートラル**」以下、CN)ですが、**地下から炭素が来る**となると、**収支が合わなくなってしまう**のです。

この状況から脱却して収支をもとに戻していこう、というのが「**脱炭素**」の考え方。そのために、エネルギーの供給側では太陽光、風力、バイオマス³などの**再生可能エネルギー**(以下、再エネ)への移行が、消費側では、できるだけCO₂を出さないための

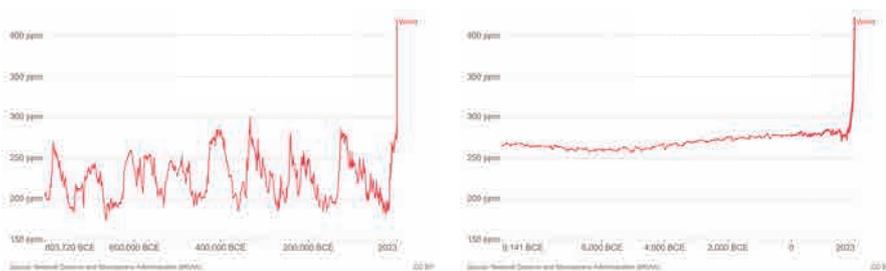


図1: 空気中のCO₂濃度の推移。左は約80万年前から現在までのグラフで、長い間180~280ppm程度で推移してきたことがわかる。右はここ1万年ほどを拡大したもの。いわゆる氷河期が終わって以降ほぼ横ばいだったが、ここ200年で一気に上昇。もちろん現在進行形だ。(出典:Our World in Data (https://ourworldindata.org)。CC BY ライセンスによる)





Q1



Q2



Q3



Q4(参考)



Q5(参考)



Q6



Q7

「ペットボトルのお茶」を例にとれば、お茶の栽培、ボトルの製

造はカーボンフットプリント（炭素の足あと）。以下、CFP（炭素の足あと）がよく聞かれるように言いました⁴。CFPは「ひとつの行為や商品によって排出することになるCO₂の総量を計算したもので、たとえばひとつの商品について、「製造前の段階から使用後の後処理まで、全部ひっくるめて考える」という点がポイントです⁵。

また、数字からは見えてこないさまざまな背景や、そこに関わる国内

造から、製品の製造、輸送、店頭での冷蔵、飲んだあとの空きボトルの回収・リサイクルまで、各段階で発生するCO₂の量を全て推計・合算した上で、商品1点あたりに換算して、「このお茶1本のCFPは360グラムです」（＝360グラムのCO₂排出に相当します）といった形で表現されます。日本人1人が1年で排出するCO₂の量は平均9トン弱^{Q2}、つまり1日あたり24キログラム程度とこのことなので、対比してみるとイメージしやすいですね。

「どれくらいCO₂が出るの？」 「どうすればわかる？」

社会的な仕組みづくりや、一人ひとりのライフスタイルの変容が、求められている、と言えるでしょう。

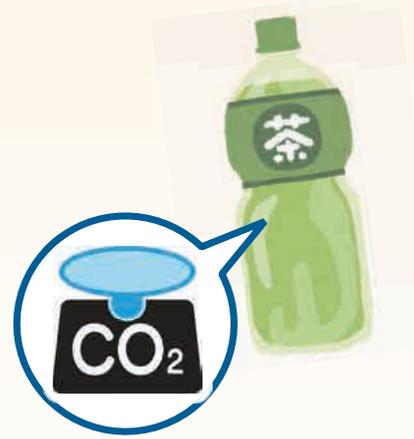


図2:「CFPマーク」。
水色の部分に、「360g」「1.5kg」というように、商品ごとのCFP値が入ります。

日本では、経済産業省と環境省による企業向け「カーボンフットプリントガイドライン」が2023年3月に発表された^{Q3}ばかりで、商品にCFPの数値を表示する「CFPマーク」(図2)の取り組みも普及はこれからなのですが、ぜひ広がってほしいものです。

具体的な考えてみる！ CO₂や、その他のさまざまな 環境負荷をめぐって

この多様な人々の事情というものが当然あります。そこまで把握はしきれないにしても、「総合的に判断するためには**多面的な見方が必要**」ということとはつねに念頭に置いておくべきなのかもしれません。

結局、いまのところ私たちが確実にできるのは、「できる範囲でなるべく正しい判断をするように心がけること」でしょうか。そのためには、「普段から環境問題や人権問題に関心を持ち、意識しながら生活すること」が重要になるでしょう。江尻さんからは、「一人ひとりが自分のライフスタイルをもち、自分なりの判断に従って行動できるようにすることが大事」との助言ももらいました。

●お湯を沸かそう。ガス？電気？

一般的にはガスのほうがCO₂排

出量は少ないと考えられているようです^{Q4}。

私なりに考えてみました。が、「ガスと火力発電」をくらべると、前者は（精製や液化・気化等の工程は入りませんが）掘り出した燃料をそのまま熱に変えているのに対して、後者は燃料を燃やしていったん電気を作り、それをさらに熱に変えるという二重変換なので、どうしてもロス（＝つまり無駄な燃焼）が多くなりますね。

いっぽう「ガスと太陽光発電」をくらべると、（太陽光パネルを作るときや廃棄するときにCO₂は出ますが）後者のCFPは限りなくゼロに近いはず。再エネ発電の比率がもともと増えてくれば、電気にも分があるのかもしれませんが。

●廃油はどうすればいい？

キッチンから出る廃油。日頃から燃えるゴミに出しつつも、「高カロリーだし、CO₂が大量に出してしまうのでは？」と、いつも気になっていました。しかし、やはり一般的には燃えるゴミで正解だったんですね。牛乳パックを使った賢い捨て方も教えてもらいました^{Q5}。

また、作業所などで廃油せっけん等を作っているところでは、実は廃油が不足しがちとのことで、喜ばれる

ケースも多いようです。さらには廃油を回収して燃料としてリサイクルする業者等も増えているそうで、調べたみたら私の地元にもありました。

そのまま下水に流すのは下水処理の負荷が大きい上、下水管が詰まる原因にもなるので、絶対にやってはダメ！だそうです。

●考察・エコバッグとレジ袋

エコバッグの製造にはそれなりにCFPがともないますが、たとえば300回繰り返し使えば、レジ袋300枚よりは低炭素となるかもしれません。もうひとつ気にしたいのは、レジ袋は容易にプラごみ、ひいては環境中にバラ撒かれるマイクロプラスチックになるだろうということです。もちろんエコバッグも廃棄時にはゴミになりますが、天然素材のものならプラ問題はクリアです。ただし、天然素材はCNではあるものの、洗濯の回数は増えるかもしれない。だとすればその分の環境負荷は高め。また、フェアな形で輸入された素材かどうか…など、この問題ひとつとっても話は単純ではないようです。結局、そんなふうにいるいろいろなことにひととおり思いをめぐらせた上で、その場に応じた判断を積み重ねていくしかないのかもしれない。

●さらにまとめてみた！「三指針集

*国産のものを食べる

できれば地元産のものを食べる
地球の裏側から来た食材は、その時点でかなりのCO2を出しています。地産地消でおいしいものを。

*旬のもの・露地栽培ものを食べる

年末に出回るイチゴなど、本来の旬をはずした果菜類は基本的にハウス栽培で、時期によっては大量の暖房を使っています。季節はずれのものを避けるだけでも炭素は削減できそう。

*CFPの低い食材を選ぶ

肉よりも魚、野菜や豆を。とくに牛肉のCFPはとびぬけて高いので、あまり食べ過ぎないようにしたいですね。⁶

*適切な移動手段を選ぶ

1人あたりのCO2排出量は「自転車」<「電車」<「バス」<「飛行機」<「マイカー」の順に大きくなります。マイカーは電車の5倍以上！⁶

*買い物は「近所」で

車も電車も使わないことで低炭素に貢献できます。地元のお店はいつでもも繁盛してほしいですね。

*NO！過剰包装

ゴミ低減だけでなく、脱炭素のためにも重要。ポリ袋1枚、包装紙

1枚にもCFPは発生します。

*紙の書類をできるだけ減らす

無理をする必要はありませんが、各種アプリやパソコンを使えば上手にペーパーレス化できるものも。

*電気ポットつけっぱなしはダメ!!

家庭の中で衣類乾燥機やお風呂に次いで電気を食うのは「つけっぱなしのポット」というデータも⁷。

*リユースシヨップや

フリマアプリを活用する

買った、売った。リユースは基本ですね！

*修理して使う、修繕して使う

バブル期に一度は失われてしまった観のある「もったいない」文化。でも、これからの時代、再び新しい常識になっていくのかも…。

他にもいろいろあるはず。みなさんも、ぜひ考えてみてください！
(文／編集部・山口いさえ)

*2 なお、CO2排出の問題以外にも、農地面積は人口に比例して今も増えつつけていて、それにもなる「熱帯雨林の伐採」や「水の大量使用」も地球の気候や生態系に大きな影響を与えていると思われま

*3 間伐材や家畜のふん、生ごみ等 動植物由来の燃料による発電のこと⁹。それ用に作物を栽培している場合もありま

*4 ライフサイクルアセスメント(LCA)という言葉もよく使わ

*5 参考：CFPプログラム¹⁰。

*6 ネット上の比較図を2点ほど挙げておきます¹¹。牛肉のCFPが高い理由には、飼料の栽培に大量の水が必要なこと等に加え、胃の中に微生物を飼っ

*7 参考：環境省¹²。

*8

*9

*10

*11(右は英文記事です)

*12



Q8



Q9(参考)



Q10



Q11(右は英文記事です)



Q12

若者たちに

「地球温暖化」について聞いてみました！

～地球温暖化に関するアンケート調査より～



地球温暖化が進むと一番影響を受けるのが若い世代。

彼ら・彼女らはこの問題について、どのように感じているのか、ネットを使ってアンケートを実施してみました。対象は本センターのスタッフの母校の後輩や本センター事業に参加している(した)10～20代の若者たち。なんと、2週間の短期間に445人から回答していただきました！ 本号ではその結果を簡単にご紹介します。

【調査名】温暖化に関するアンケート調査 【実施期間】2023年4～5月
【対象】本センターのスタッフがつながりのある都内の中学生・高校生・大学生・社会人
【方法】インターネットを使ったアンケート調査 【有効回答数】445件

● 回答者の多くが18歳以下

左上図のように、「15歳以下」が178名と最も多く、全体の40.0%を占めます。次に16歳が78名(17.5%)、17歳が4名(0.9%)、18歳が61名(13.7%)と続きます。18歳以下が全体の7割以上となります。

Q1 地球温暖化についてあなたは

どのように感じていますか？
(複数回答)

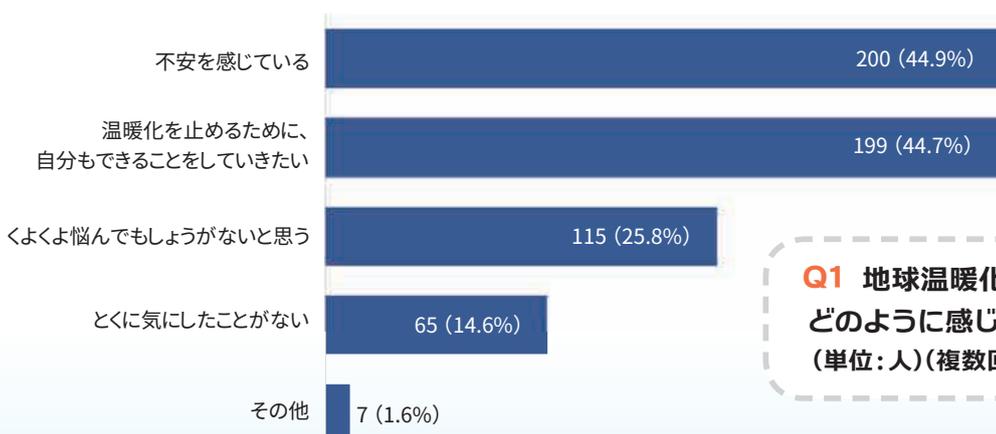
最も多かったのは「不安を感じている」が200名、全回答者の44.9%。また、ほぼ同数で、「温暖化を止めるために、自分でもできることをしていきたい」が199名で44.7%が回答。「くよくよ悩んでもしょうがないと思う」が115名(25.8%)、「特に気にしたことがない」が65名(14.6%)、「その他」は7名(1.6%)となっています。若者たちの半数近くが不安を感じていて、自分でも何かしたいと考えているようです。

自由記述では日々の生活やテレビ、学校などで、地球温暖化について知っていて、不安を感じていることがわかります。「数十年後のことを考えると不安になったり、自分が何ができるのかを考えますが、私一人が取り組んでも世界中の人が取り組まなければ効果が得られないと感じてしまう」「地球温暖化防止のために私たちができることを知りたい」など、何が効果的なのかがわからないという声も多くありました。また、「先人の方々が便利さだけを追求し続けてきたことが問題点となります。(中略)そしてこの先、地球温暖化についての解決方法を考え実行するのは私たちとなります。」という声もありました。

Q2 地球温暖化や地域にやさしい

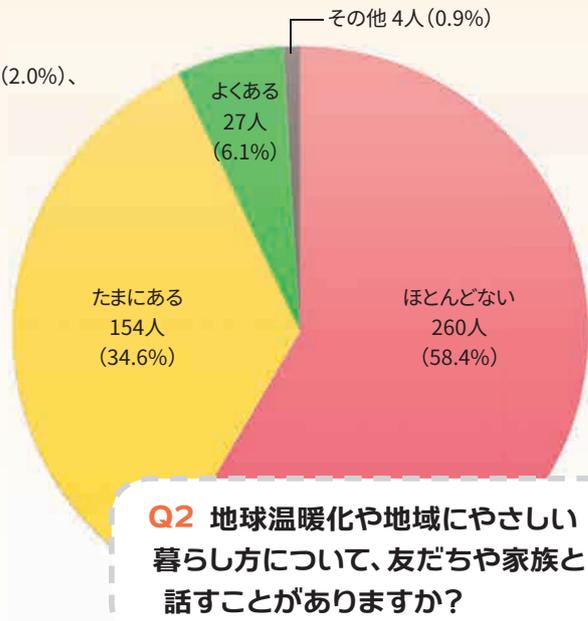
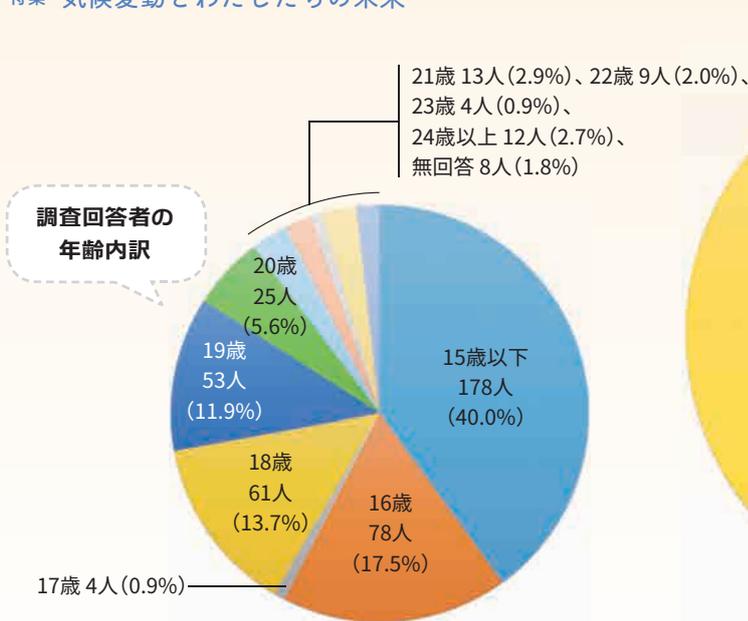
暮らし方について、友だちや家族と話すことがありますか？

友だちや家族と話すことは、「ほとんどない」と回答したのは260名、全回答者の58.4%と半数以上となっています。「たまにある」が154名(34.6%)、「よくある」が27名(6.1%)となっています。地球温暖化は気になるけれど、それを周りの人と話すことはあまりしていません。



Q1 地球温暖化についてあなたはどのように感じていますか？

(単位:人)(複数回答) n=445



また、「学校の地球温暖化についての授業をするときに友だちと話す」など、学校では授業として、SDGsや地球温暖化についてとりあげているようです。

最も多かったのは「一人ひとりがCO2の排出の少ない暮らしを心がける」が414名で、全回答者の93.0%が回答。次に「社会全体が変わっていきけるように、ネットやイベントなどで発信していく」331名(74.4%)、「技術の進歩」247名(55.5%)、「法律でCO2排出を規制したり、CO2を出さない太陽光発電や風力発電等を推進する」131名(29.4%)、「CO2排出の少ない暮らしをする人が増えるように、まわりの人たちに働きかけていく」126名(28.3%)、「とくに何かする必要はない」12名(2.7%)、「その他」13名(2.9%)となっています。多くの人が一人ひとりの心がけや情報発信が重要だと感じているようです。

自由記述では、法律で規制すること、何をすべきかをインターネットやテレビ、学校教育、企業のイベントなどで伝えること、再生可能エネ

ルギーや環境負荷の少ない乗り物への移行、経済的發展とのバランスをとること、他国との連携などがあげられています。「私たちは学校で考えてきたが、社会で働いている世代はあまり理解できていないと思う」「戦争こそ大量なCO2を排出している。すぐにやめるべき」というコメントもありました。

Q3 地球温暖化を止めるためにはどんなことが大事だと思いますか？
(複数回答)

Q4 あなた自身は地球温暖化に對して何ができると思いますか？
思うことがあれば教えてください。

なお、若者たちの自由回答は全てウェブに掲載しています。ぜひ、若者たちの「声」を讀んでみてください。

一人ひとりがCO2排出の少ない暮らしを心がける 414 (93.0%)

社会全体が変わっていきけるように、ネットやイベントなどで発信していく 331 (74.4%)

技術の進歩 247 (55.5%)

法律でCO2排出を規制したり、CO2を出さない太陽光発電や風力発電等を推進する 131 (29.4%)

CO2排出の少ない暮らしをする人が増えるように、身のまわりの人たちに働きかけていく 126 (28.3%)

とくに何かする必要はない 12 (2.7%)

その他 13 (2.9%)

QRコード

Q3 地球温暖化を止めるためにはどんなことが大事だと思いますか？
(単位：人)(複数回答) n=445

一人ひとりがCO2排出の少ない暮らしを心がける 414 (93.0%)

社会全体が変わっていきけるように、ネットやイベントなどで発信していく 331 (74.4%)

技術の進歩 247 (55.5%)

法律でCO2排出を規制したり、CO2を出さない太陽光発電や風力発電等を推進する 131 (29.4%)

CO2排出の少ない暮らしをする人が増えるように、身のまわりの人たちに働きかけていく 126 (28.3%)

とくに何かする必要はない 12 (2.7%)

その他 13 (2.9%)

QRコード

Q3 地球温暖化を止めるためにはどんなことが大事だと思いますか？
(単位：人)(複数回答) n=445

一人ひとりがCO2排出の少ない暮らしを心がける 414 (93.0%)

社会全体が変わっていきけるように、ネットやイベントなどで発信していく 331 (74.4%)

技術の進歩 247 (55.5%)

法律でCO2排出を規制したり、CO2を出さない太陽光発電や風力発電等を推進する 131 (29.4%)

CO2排出の少ない暮らしをする人が増えるように、身のまわりの人たちに働きかけていく 126 (28.3%)



2022年11月にエジプトで開催されたCOP27にて、「Children&Youthパビリオン」に集まった各国の若者たち。

寄稿

気候変動とわたしたちの未来



高尾文子

CYJ 副代表・COP27 事業統括、
国際基督教大学（ICU）3年

1 CYJ の紹介

● 青年環境 NGO

Climate Youth Japan
(CYJ) 及び

私たち青年環境 NGO Climate Youth Japan (以下 CYJ) は、国連気候変動枠組条約締約国会議（筆者注）の第15回国会議 (COP15) に参加した日本ユースによって2010年春に設立された、ネットワーク型の青年環境 NGO です。「ユースが気候変動問題を解決へ導くことで、衡平で持続可能な社会を実現する」をビジョンとして、COP21 において採択された国際枠組みであるパリ協定の1.5度目標の達成、そしてユースが社会の意思決定プロセスに関わることを目指し、日本国内、国外各地から集まったメンバー約50名程度で活動しています。

設立以来、政策提言活動及びそれを支えるプラットフォーム構築、関

係省庁や国内企業・自治体との意見交換、国連気候変動枠組条約締約国会議 (以下 COP) へのメンバー派遣や内部勉強会を通じた人材育成、国内外のユースへの気候変動問題に関する意識啓発などを実施してきました。2023年度は、これまでの活動で築いた海外ユースや市民団体、企業、省庁などの多様なネットワークを長期的な連携に結び付け、国内外で気候変動対策に関する啓発を先駆的に行う気候リーダーの育成を目指し、さらにレベルアップした活動を行う予定です。

● CYJ の普段の活動

普段 CYJ では政策提言・意見交換会などのアウトプットベースの活動と同時並行で7分野 (エネルギー・気候正義・司法・国際動向・気候変動適応・ネイチャー・ビジネス) に渡る勉強会の定期開催で気候変動に係る知識や議論の醸成を行っています。

【筆者注1】国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP)

1992年に採択、1994年に発効された「国連気候変動枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change: UNFCCC)」は、気候に対して危険な人為的干渉 (dangerous anthropogenic interference) を防止するレベルで、大気中の温室効果ガス濃度の安定化を究極の目的とした条約のことである。2023年5月現在で198カ国が締結・参加している。本条約に基づき、1995年から毎年、気候変動枠組条約締約国会議 (Conference of Parties: COP) が開催されている。

2015年に策定されたパリ協定には、産業革命以前に比べて、21世紀末の世界の平均気温の上昇を2°C以下に、できる限り1.5°Cに抑えるという目標が記されている。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の『1.5°Cの地球温暖化 (Global Warming of 1.5°C)』では、地球温暖化を2°C以上ではなく、1.5°Cに抑えることによって、極端な豪雨や熱波や、人が生活や経済を営む土地への影響、動植物への影響など、多くの気候変動の影響が抑えられると伝えられている。

【筆者注2】Conference of Youth (COY)

COY (Conference of Youth) とは、若者だけで行うCOPのこと。毎年開催されるCOPの場で若者の意見を十分に反映させるために、国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) 事務局によって公式に認められたユース組織「YOUNGO」によって開催されている。



対面で開催した勉強会の様子。

上記の活動の中でもCYJが最も力を入れているのがメンバーのCOP派遣です。CYJはこれまでに50名を超えるユースをCOP及びCOP前に開催されるユースの会議である「Conference of Youth (COY) (筆者注3)」に派遣し、気候リーダーの育成に取り組んできました。昨年2022年11月には計7名のCYJメンバーをエジプト、シャルム・エル・シェイクで開催されたCOY17とCOP27に派遣し、会期中の2週間にわたる活動、その他派遣前準備から報告書作成まで1年弱にわたるCOP27事業を遂行しました。

このインプットとアウトプットを同時並行で行うことで、ユースによる地域・世代を超えた気候変動問題解決を軸として、世代間・国家間の多様な視点を持つ将来の気候リーダー育成に取り組んでいます。同時に、対外的な活動を通じた意思決定の場にユースの声を届ける機会の創出と、関係団体との長期的かつ実践的な連携及び気候変動分野以外の団体との協業により、継続的にユースが政策決定プロセスに関われる体制づくりと様々なステークホルダーとの協働を目指しています。

● CYJ COP 派遣事業概要

この記事をよみながら、気候変動に関するリスクと課題、温度上昇と気候変動について、我々のビジョンに含まれる「衡平で持続可能な社会」や、活動目標とする「パリ協定の1.5度目標の達成」「ユースが社会の意思決定プロセスに関わる」の背景には、将来世代として、今後数十年にわたって気候変動対策を行い続ける責務があります。

この記事をお読みになられている方も、気候変動によって様々な影響がもたらされるといえることは聞いたことがあるかと思いますが、そのような影響については、温度上昇による影響の大きさの変化などを具体的な事象とともにまとめた報告書が各国政府に承認され発表されています。今年の3月には「気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change: IPCC)」という政府間組織によってまとめられた最新の報告書「第6次評価報告書統合報告書 (AR6 SYR)」が発行され、CYJの勉強会でも盛んな議論が交わされました。

今回の報告書の中で注目される点は「人間活動が主に温室効果ガスの排出を通して地球温暖化を引き起こしてきたことには疑う余地がなく、

「気候変動に関するリスクと課題

● 温度上昇と気候変動について

この記事をよみながら、気候変動に関するリスクと課題、温度上昇と気候変動について、我々のビジョンに含まれる「衡平で持続可能な社会」や、活動目標とする「パリ協定の1.5度目標の達成」「ユースが社会の意思決定プロセスに関わる」の背景には、将来世代として、今後数十年にわたって気候変動対策を行い続ける責務があります。



CYJメンバー(2023年5月開催のCYJ合宿にて)

1850〜1900年を基準として、世界の平均気温は2011〜20年に1.1℃の温暖化に達した」と伝えている部分です。さらに、「仮に温室効果ガス排出を最小限に抑えても、今世紀末までに1.5℃の気温上昇は避けられず、このまま排出を続ければ今世紀末までには4.4℃上昇する」という可能性も示唆されています。1.5℃上昇にとどめられるかどうかは、気候変動の影響が人類に深刻な影響を与える重要な境界です。

急速な温度上昇は、すでに世界中の地域において様々な形で深刻な影響を及ぼしており、極端な現象・気象の発生や、自然と人々に対して広範な悪影響、そしてそれらの影響に関連した損失と損害をもたらしています。

「気候変動解決に向けた国際会議

● COP27の概要

このような課題を踏まえて、各クターは気候変動に取り組むための会議を開催しており、取り決めた元にした行動を促進させようとしています。2021年11月に開催されたCOP26では「グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact)」が発行され、CYJもメンバーを派遣した

COP27は「Implementation COP(P(実施のためのCOP)」と呼ばれ、具体的で有効な気候変動対策の実装に向けた動きの加速を目指しました。例えば、温室効果ガス排出の緩和作業計画の策定、緩和に関するハイレベル閣僚級対話、適応資金の倍増などについての議論が大規模に前進することが期待されていました。

COP27で決定された「シャルム・エル・シェイク実施計画(Sharm el-Sheikh Implementation Plan)」では16に渡る項目が言及され、「グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact)」を踏襲しつつ、緩和、適応、ロス&ダメージ(気候変動の悪影響に伴う損失及び損害)、気候資金などの分野で締約国の気候変動対策の強化を求める内容になりました。

● COP27と発展途上国

またCOP27は「アフリカで開催されたCOP」ということで、今までのCOP以上に途上国に焦点が当たった機会になりました。発展途上国は、気候変動の影響に脆弱であり、気象災害による被害が一国の対応能力を超えてしまうケースも出てきています。そのため気候変動によって移住を強いられる気候移民・難民の発生や、文化、経済、社会的な理由か

ら高い危険にある地域から移動できない、という新たな人口移動の問題も報告されています。

このような背景から、発展途上国にとって、気候資金の議題は最も注目している点です。特にアフリカ諸国は気候変動への適応を行うための適応資金を優先的に議論すべきという姿勢を持っています。そして適応策のみではカバーしきれない気候変動の影響に対しては「ロス&ダメージ」の分野が補償することになります。

ロス&ダメージ(または「損失と損害」)は、小島嶼国や後発開発途上国などが中心となって、適応の対策範囲を超えた気候変動の影響に対する補償について話し合おうとしたことが始まりです。この緊急性が高いロス&ダメージの議論は気候変動の責任と補償という考え方と密接に関連しており、先進国と途上国間での合意形成が難しいところです。産業革命以降の温室効果ガス排出にほとんど寄与していないにも関わらず、気候変動による大規模な被害を受けやすいという不平等性に対して、公正に対応することで先進国と途上国間で合意を取る必要があるからです。

この難題に対して、COP27ではロス&ダメージに対する新基金設立が合意されました。これは気候変動



COP27派遣報告書
COY17・COP27それぞれの概要、
CYJが現地にて行った活動を報告し、
メンバーそれぞれの鮮やかな
経験と記憶を綴った。



写真・画像提供=CYJ

の国際交渉上では大きな転換点です。この基金設立を踏まえて今年11〜12月にUAE(アラブ首長国連邦)で開催されるCOP28では、基金の拠出額や運用について詳細な内容の議論が行われる予定です。今年もメンバーを派遣するCYJは、ユースの視点から先進国と途上国間で合意をとる難しさを乗り越え、気候正義に基づく配当が行われるかなどを注目の一つにしていきたいと考えています。

「CYJの将来展望と課題」

COP派遣や普段の勉強会での議論、国内での政策提言や意見交換を踏まえ、CYJに2年弱所属する筆者自身も多くの学びを得ています。CYJの活動を通じたユースの役割やCYJの将来展望を考えた時、複数の課題が挙げられると感じています。

一つ目にユースの声が届きやすいセクターと、そうでないセクターがある点です。過去5年ほどで気候変動に取り組みユースが強調することも目まぐるしく変遷してきています。5年ほど前は「若者の声を聞いてください」というメッセージが大部分を占めていました。しかし現在は気候

変動分野と他の社会課題分野を比較した時、若者が先駆的に取り込まれていると言えるでしょう。ユース参画の体制が整い始めている一方、政策立案や企業の意思決定分野への参画にはまだ余地があると考えています。例えば比較的声の届きやすい国會議員や中央省庁、都市部の自治体だけではなく、近年気候変動への取り組みが促進されている企業や地方の自治体などと長期的な協力関係を築いていけることを期待しています。

二つ目に、意見発言などの機会の中で、発言権を得られるユースに偏りがあり、多様な市民・ユースの声を社会の意思決定の場に届ける機会が不十分であるという点です。若者・市民の中でも多様な意見が存在しているにも関わらず、現状、意見交換会などに出席できる人や機会には限りがあります。特に多くのユースは本業を学業とすることから、発言機会とタイミングが合った上で意見を届けられるのは、若者の中でも一握りの存在になってしまっているのではないのでしょうか。CYJの活動を通して、様々なバックグラウンドを持つ主体の意見を集約し、政策立案に効果的な発言ができる体制が整っているかは常に問う必要性を感じています。

将来世代であるユースの視点から、気候変動に対する危機意識の共有と国内外の意思決定の場にユースの声を反映させることは、長期的な視点で気候変動対策に取り組むために不可欠です。日本国内では少子高齢化の影響もあり、各所でユースの意見が反映されにくいという構造的な問題があります。この状況を踏まえ、ユースの意思決定参画をさらに促進するために何ができるか、常に考える必要があります。今後のCYJの活動を通して、各ステークホルダーにこのような構造的な問題を認識してもらい、長期的な視点で気候変動対策に取り組むように促していきたいと考えています。

青年環境NGO
Climate Youth Japan
(CYJ / クライメート・ユース・ジャパン)

1年間の相談を振り返って(2022年度)

東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)には、市民(個人)、ボランティアグループ、市民活動団体、NPO法人、社会福祉施設、企業、行政機関、マスコミなど、さまざまな方から多数のご相談・お問い合わせが寄せられています。

■ 1年間で約1万7千件の相談

2022年度の相談件数は16715件でした。

2020年度(17717件)と2021年度(15007件)

は、1年ごとに相談件数が大きく増加・減少し、コロナ禍が相談件数にも大きな影響をもたらしていました。それに比べて2022年度は、件数の面ではコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。

■ 相談方法と相談者の属性

◇ 電話が増加、オンラインが減少

相談方法は、電話・メール・来所・オンライン等があります(図1)。

2022年度、最も多かったのは電話による相談で9422件、全体の56%を占めています。電話相談は、コロナ禍に突入した2020年度に1万件を超えまし

たが、2021年度には大きく減少(7860件)していました。ところが、2022年度には電話相談が再び大きく増加したことになります。一方で、ここ2年間、700件を超えていたオンライン等による相談は減少(452件)しました。

コロナ禍前には10%前後だったメールによる相談は、2020年度以降は、全体の20%以上を占め続けています。来所による相談は前年度並みの3000件あまりでした。

コロナ禍の状況が移り変わる中で、相談方法もオンラインから電話、状況によっては来所相談へと、戻りつつあるようにみえます。

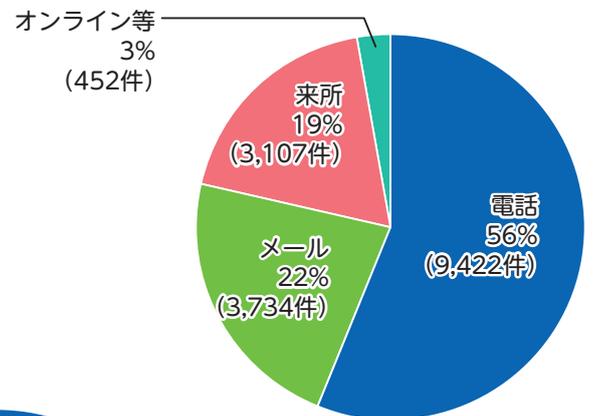
◇ NPOからの相談は減少続く

・ 推進団体からの相談が増加

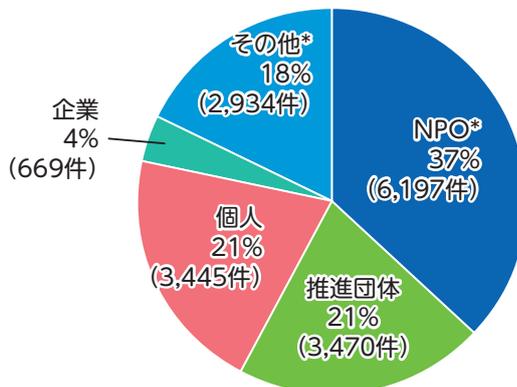
相談者のうち最も多いのがNPO

(民間非営利組織)でした(図2)。ここでの「NPO」には、

NPO法人だけでなく、ボランティアグループや当事者団体・セルフヘルプグループ(SHG)を含む、任意団体として活動する市民活動団体等も含んでいます。NPOからの相談は全体の37%、6197件寄せられました。前年度と比べると、件数や全体に占め



【図1】相談方法の内訳



【図2】相談者の内訳

る割合はほぼ同様ですが、NPOからの相談は、コロナ禍前には1万件を超えることもあり、全体の5割から6割を占めました。で、コロナ禍以降、大きく減少した状態が続いていることになりました。

NPOに次いで多かったのが、ボランティア・市民活動センター等「推進団体」からの相談です。2022年度はこれまでにないほど推進団体からの相談が多く寄せられた1年となりました。



推進団体からの相談内容は多岐にわたります。例えば来所者から「ボランティアしたい」「こういう活動をしている団体を探している」などの相談を受けたボランティアセンター等から「相談者に提供できる情報がT V A Cにあるか」などといった問い合わせも多くありました。地域で活動していた団体がコロナ禍等で休止や解散を余儀なくされていることが背景にあると思われま

す。また、「任意団体の会則を作りたい」「N P O 法人について知り

たい」などの相談を受けた中間支援組織からの問い合わせ・相談も多く寄せられました。なかでも任意団体のお金の取り扱いや事業内容の相談、法人化に関する相談、N P O 法人の運営に関する相談が増えています。推進団体から寄せられる相談からは、地域やエリアを問わず、幅広い層が市民活動やN P O 法人に高い関心を寄せていることがみえてきます。

◇個人からの相談、3000件超

個人からの相談は、全体の21% (3445件) でした。内容でも多かったのは「話したい」「話を聞いてほしい」というものでした。これはコロナ禍以前から続く傾向です。2022年度は特に、孤独・不安に関する声が多く寄せられ、「誰にもしんどさをわかってもらえない」「毎日苦しいし、悔しい」「これからの人生を考えると不安」などの声をたくさん耳にしました。

これらの中には、最初は「ボランティア活動の相談」として寄せられるものも多くあります。「人と話せる活動がしたい」「家に一人である。仕事が見つかるまで、ボランティアをしたい」などのお話を伺う中で、少しずつ生活の実情や、

「寂しい」などの思いを吐露される方が多くあり、ボランティア活動をすることで「知り合いができるかも」「気持ちが前向きになるかも」という期待があることを感じます。誰かとつながりたいけど、うまくつなげられない。孤独感に苛まれて苦しんでいることを誰にも伝えられない。外からは見えにくい孤独や不安を一人で抱えている方が多くいらっしやることを改めて実感した1年でした。

また「食べるものがなくなった。助けてほしい」「暖房が使えない。灯油がほしい」など、まさに切迫した状況にある方からの相談も増えています。2022年度には様々な制限が解除され、人びとの生活や社会の動きが戻ってきたように感じる場面も増えてきました。が、生活困窮に関わる相談は、コロナ禍以降、増加の一途をたどっています。

その他、社会福祉施設や行政、学校・教育機関、保健・医療機関、マスコミなど、多様な機関から相談が寄せられています。例えば、企業等からは、I T を使った団体支援や、食品などの寄付に関する相談、社員ボランティアの活動先についての相談などが寄せられました。

相談の内容

◇「N P O 法人」の相談が4分の1

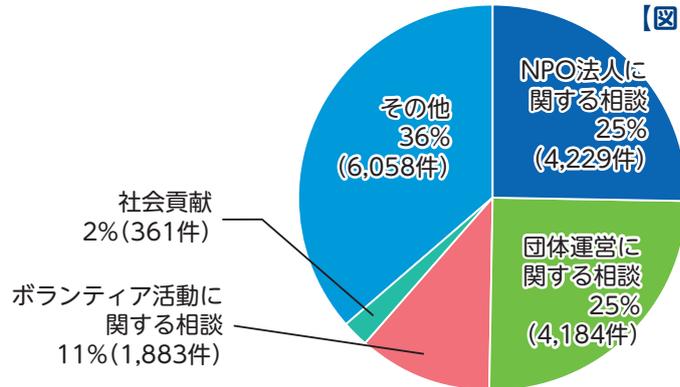
T V A C に寄せられる相談の内容は多岐にわたります (図3)。

最も多いのが「N P O 法人に関する相談」で、4229件、全体の4分の1を占めます。なかでもN P O 法人の「運営」に関する相談が1513件、「設立・申請」に関わる相談が1133件となっています (図4)。「運営」に関する相談では、前年度同様、定款や総会・理事会に関する相談、役員変更の手続きに関する相談が多く寄せられています。

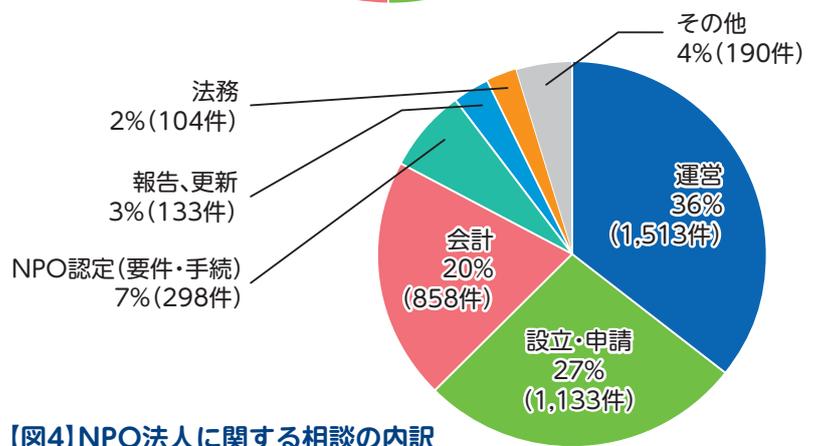
また、「寄付募集のときに気を付けること」などの相談もありました。2023年1月に施行された寄付に関する新法に関連して法人等の意識も高まっており、今後、このような相談が増えることが予想されます。

「会計」に関する相談(858件)は、N P O 法人相談の20%を占めます。ネット決済や電子マネーの取り扱い・処理に関する相談、インボイス制度に関する相談が目立ちました。社会の動きに伴い、N P O 法人の関心や悩みごととも変化してゆくことを実感します。「認定N P O 法人」の申請等に関

【図3】相談内容の内訳



するものは、298件でした。コロナ禍の当初、活動休止中の時間を使って認定申請を目指そうとした法人が多くありましたが、2021年度以降、その動きはひと段落したようにみえます。一方で、認定NPO法人の「運営」(45件)、「更新申請」(16件)の相談は、ここ数年で最多となりました。コロナ禍で活動が思うようになり



【図4】NPO法人に関する相談の内訳

ない時期が長くあり、またオンラインの活用等で会場費が不要になるなど、事業にかかる費用の用途も変化してきています。それに伴い、認定要件の一つである「受入寄附金総額の70%以上を特定非営利活動に係る事業に充てているか」について、実績判定期間中に満たすことが難しくなっている認定NPO法人からの相談が増えました。

先行きの見えない状況で、事業展開の方法を工夫してきたことによる新たな悩みといえます。

◆活動の再開が本格化

・新たな「立ち上げ」相談も多い

「団体運営」に関する相談は、4184件で、こちらも全体の4分の1を占めました。ここでは、NPO法人だけでなく任意団体からの相談も多く含まれます。内容は、組織運営やファンドレイジング、ボランティア関係、広報など多岐にわたります。なかでも「事業内容」(1040件)とイベントなどの「企画・実施」(1363件)に関する相談が多く寄せられました。活動の実施やリニューアルを念頭においた相談が多く、再開が本格化しつつあるのを感じます。一方、助成金や寄付などの「資金調達」に関する相談も540件寄せられています。寄付金や事業収入の減少が続いている上、再開や新たな活動のために必要となった資金の確保に、多くの団体が頭を悩ませています。

また、新たに団体を立ち上げる相談も寄せられています。「活動のはじめ方」(83件)や「会則・ルールづくり」(79件)など、最初の一步に関する相談が多くありまし

た。特に、子ども食堂やフードバンクへの関心は高く、ニュースなどを見て「自分たちも始めたい」と考える方が相談にきています。コロナ禍当初は減少していた多文化共生や日本語教室等を始めたいという相談も、少しずつ戻ってきています。

まだあまり取り組まれていないテーマで活動を立ち上げる相談もあります。例えば「シングル女性の孤独について話せる当事者会」や「ひきこもり経験をもつ当事者が集って一緒に作業できる、福祉事業所ではない場」などの背景には「必要としているのは、きつと、私だけではない」という思いがあります。2022年度は、自分自身や身近な人の困りごとを、地域のニーズや社会課題として捉え、活動化していくことを目指す相談が印象的でした。

また、立ち上げに伴い、銀行口座の開設に関わる相談が複数寄せられました。最近では、任意団体だけでなく、NPO法人であっても、設立直後には簡単に口座を開設できない状況にあるようです。「ひきこもり」や子ども食堂等、地域での活動に社会の注目や関心、そして期待が高まる一方で、活動者や団体を支援する環境は十分とは

言えません。市民活動のさらなる推進のためには、社会全体で、活動しやすい基盤づくりに取り組んでいく必要があるように感じます。

◇「ボランティア希望」大きく増加

ボランティア活動に参加したい方からの相談は、1883件と、前年度を1400件近く上回って寄せられています。「時間ができたのでボランティアしてみたい」「定年退職したので、活動してみたい」という声が多くあったのですが、ボランティア受け入れ側のNPOや施設では、コロナ禍等の状況によって、募集の人数や機会を限定したり、過去の参加者に限って募集をしたりなどの状況が続いており、新たな参加希望者がボランティア活動を探すのが難しい状況もありました。そのため、「やりたい活動が見つからない」「募集情報が少なく、予定が合わない」などの相談が寄せられています。

一方でNPO側は、活動を再開するにつれて、ボランティア募集やプログラムの見直しなどに取り組んでいます。今後は、これまで以上に多様なボランティア活動が展開されることが期待できます。

参加を希望する活動は、「子ども」や「環境保護」に関わるもの他、語学やIT技術などの「技能を活かした活動」などが多いですが、チャリ作成やホームページ管理など、団体の運営に関わる事務ボランティアも希望者が多い分野です。さらに、具体的な活動への参加だけでなく、トルコの地震やウクライナから避難されている方への支援に対する「寄付をしたい」という相談も多くあります。寄付希望者からは、「どこに寄付をしていいかわからない」「寄付を受け付けているNPOの探し方がわからない」などの声が寄せられています。

活動に関わるボランティア以外にも、市民が団体や活動に参画できる機会はたくさんあります。NPOへの関心の高まりとともに、NPO側においては多様な参加の機会をよりわかりやすく発信することが求められていることを感じました。

* * *

TVACでは、多様に寄せられる相談に対して、多様な選択肢をもって団体や活動の「今後」を見つげ出す一助となるような伴走を心掛けています。さらに、必要に

応じて法務相談などの専門相談につなぐ対応をしています。

また、外部研修への参加やスーパービジョンの実施、定期的な勉強会の開催、他機関相談担当者との情報交換などを通して相談員のスキルアップに取り組んでいます。

今後も相談内容の傾向から団体の抱える課題や市民のニーズを把握し、市民活動を取り巻く状況の変化を読み取りながら、TVACの事業に反映させていきます。

(相談担当専門員 森玲子)



東京ボランティア・市民活動センターの相談窓口のご案内

東京ボランティア・市民活動センターでは、NPO法人、ボランティアグループ、当事者団体・セルフヘルプグループからの団体設立・運営などのご相談をお受けしています。

相談方法は、来所・電話などがあります。

まずは、お電話にてご予約ください。

電話：03-3235-1171（予約優先）



せかいをみる

海外におけるボランティア・市民活動や市民と社会とのかかわりを知る・考える連載ページ。

赴任先の13の国から3つの地域、そして日本の子ども達からの「SOS」について、大江浩さんに寄稿していただきました。

寄稿

「子ども達に ふさわしい世界を」

大江浩（社会福祉法人賛育会）

● はじめに…

「Think Globally,
Act Locally」(TJUNJUN)

世界は多様で多元的で複合的です。「せかいをみる」という時、言語・文化・民族・歴史・宗教等の違いに加えて、歴史的な時間の違いを理解したいと思えます。例えば、和暦の令和5年は、西暦2023年11月14日、イスラム歴1444年。刻まれる時が違ふということ、生きていく世界が同じではないということ、です。

私は、阪神・淡路大震災（1995年）以降、国内外の緊急支援に関わり、JOCS（日本キリスト教海外医療協力会）では途上国の保健医療協力に従事しました。YMCAとJOCSのエピソードを中心に、前職（興望館）と現職（賛育会）でのミッションを交えて、現場から見える「子ども達からのSOS」を通して考えます。

しかし、人間の命の重さと尊さは変わらない（はず…）。

陽は昇り沈む。風が吹き、雨が降る。分け隔てなく生命に降り注ぐ。今、この瞬間の出来事が、時空を超えて繋が

地球はシンクロしています。絵本『ぼくがラーメンたべてるとき』（長谷川義史、教育画劇、2007年）がその現実を見事に描いています。最も弱い立場にある子ども達の、無数の小さなSOSが無視されていることへの警告を、私達大人は厳に受け止める必要があります。

「Think Globally, Act Locally」は重要です。足元でできることは、世界に繋がっています。それは、平和に至る道であると信じます。

● エピソード

アフガニスタン—紛争と干ばつしか知らない子ども達

私は2002年9月、アフガン難民の子ども支援の調査目的でパキスタンとアフガニスタンへ赴きました。首都カ

ブルでは、爆弾テロに遭遇し、少数民族ハザラ人居住区の「母子クリニック」に滞在しました。女児・女性を診る医師は女性のみ、しかし女性には就業禁止のタリバン時代は「隠れたクリニック」でした。小児患者には、終息したはずの「リーシュマニア症（皮膚病）」を患う子どももいました。戦争や衛生が原因で再発していたのです。男児の就学率は30%、女児は3%…。適齢期の12歳になると、親が決めた家へ嫁ぎ、実家と嫁ぎ先しか知らないという女児の人生を知りました。山岳の村では、AK47自動小銃を背負った少年兵から自慢の銃と銃弾を見せられました。

ペシャワールの難民キャンプの子どもの遊び場は産業廃棄物が垂れ流されている川。闇市場では「何でも売買」されていると聞きました。子ども達の命までも。これを人間の安全保障、そして人道の危機と言います。「紛争と干ばつと窮乏の無い世界」平和な日常」を知らない子ども達でした。

大江浩（おおえ・ひろし）



社会福祉法人賛育会 赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長。大学では心理学を専攻し、キャンプリーダーのボランティア活動に従事。神戸YMCA(1980～)、横浜YMCA(2002～)、JOCS（日本キリスト教海外医療協力会）(2006～)、日本YMCA同盟（2015～）を経て、2020年より社会福祉法人興望館（1919年創立）、そして2023年4月から社会福祉法人賛育会（1918年創立）へ移り、現在に至ります。

(上2点)アフガニスタン・カブールの母子クリニック。
 (左下)アフガニスタンの山岳地帯。
 (右下)パシャワールのアフガン難民キャンプ。



賛育会



興望館



●エピソード2
 パキスタン―救えるはずの
 赤ちゃんの命

J O C S在籍時に派遣した
 ワーカー(小児科医)の赴任地
 の聖ラファエル病院の年間出
 産件数は、約1800(当時)。
 病院は24時間365日体制で
 す。唯一人の小児科医のワー
 カー曰く、「聖ラファエル病
 院には人工呼吸器は1台しか
 ありません：2人の内どちら
 かしが人工呼吸器を使えない
 状況だったので。どうすれ
 ばよいのか、私は自分では決
 められず、くじを作って家族
 の方に引いてもらいました。
 人工呼吸器を使わなかった子
 は約12時間後に亡くなり、人
 工呼吸器を使った子も数日後
 に亡くなりました」。救え
 るはずの命が救えないという
 悲痛な現実。名が与えられる
 前に天に召される新生児と
 向き合う日々。ワーカーは、
 日々、朝夕シスター達と祈り
 ました。

ワースト1位はシエラレオネ
 の78・30/千人、パキスタン
 はワースト16位で52・8/千
 人、192位の日本は1・70
 /千人で、パキスタンは日本
 の約50倍。これは命の数字、
 生まれること・生きること・育
 つこと自体が奇跡であるこ
 とを示す数値です。《大切な
 のは、どれだけたくさんのこと
 とをしたかではなく、どれだ
 け心をこめたかです》ワー
 カーの折れそうな心を支えた
 マザー・テレサの言葉です。

●エピソード3

トルコ大地震(1999年)
 と「子どもボランティア」

トルコ大地震では、子ども
 達の生きる力と可能性に教え
 られた出来事にも出会いまし
 ました。

阪神・淡路大震災の後に発
 足したNGOs K O B E(N
 G O 災害救援ネットワーク)
 は、震災で受けた海外からの
 援助に対する「被災地責任」、
 即ち恩返しをと、約半年間、
 トルコ大地震の現地支援を続
 け、私も参加しました。

被災した小学生の女兒4人
 が、同じく被災した年少の子
 ども達へ絵本の読み聞かせ
 や遊び相手の「子どもボラン
 ティア」を始めました。参加
 者が増え、NGOs K O B
 Eが大きめのテントを寄贈し
 たところ、女兒達は「愛と望
 みのテント」と名づけて大人
 を開所式に招きました。大人
 達は感涙しました。もう一つ
 新たなテントを贈ると、今度
 は「白いハートのテント」と名
 づけたそうです。彼らは、「平
 和の使徒」でした。「自分達に
 も何かできることがある」と、
 自主的に活動を始めた女兒達
 の行動に私達は深く学びまし
 た。彼女達が今も生き続けて
 いれば、35歳。一人の大人と
 して、それぞれの置かれた場
 所で平和に取り組んでいる
 (はず...)です。私は彼女達の
 存在を、一生忘れません。

●子ども達の「声なき声」、
 “静かなる緊急事態”

私が赴いた現場は、計13の
 国々。子ども達は、“静かなる
 緊急事態”の中で、その日一



パキスタン
聖ラファエル病院にて。

日を生きていました。「世界では過去最多、約4億人以上、5人に1人の子ども達が紛争地で暮らしている」(ユニセフ、2023年)。これは数限りない悲劇のほんの一部です。次々に始まり終わらない戦争や災害や貧困で、どれほど子ども達の命が脅かされていることか。

国連子ども特別総会(2022年5月)で、子ども代表が「子ども達にふさわしい世界」は、(大人を含めて)私達にふさわしい世界であるべきだ」と訴えたことを思い出します。

私達は約束します。大人になった時にも、子どもである今と同じ情熱を持って、子ども達の権利を守ることを…私達は世界の子ども、生まれや育ちは違っても、共通の現実を分かち合うのです。あなたがた(大人)は子どもを「未来」と呼びます。私達は、「今を生きる存在」でもあるのです」

私達は多くの過ちや間違いを犯している／しかし最大の罪は子ども達を見捨てて

いることだ。この生命の泉を無視していることだ／多くの必要なことは待つことができる／しかしこの子にはそれができない／今、彼の骨が造られ、血が造られ、感覚が育っているのだ／この子に対して私達は「明日ね」ということはできない／彼は「今日」なのだ
(チリのノーベル文学賞受賞者
ガブリエラ・ミストラル女史の
詩、'His Name is Today's')

●最後に…

私達は《微力》だが、
決して《無力》ではない。

社会福祉法人興望館(1919年創立)では、認定こども園や学童保育等と児童養護施設を中心としたキリスト教地域福祉に携わりました。0歳児からの保育を通して、子ども達の成長と発達に奇跡と出会いました。保育の現場で学んだ最も大きなことは、《平和は笑顔から始まる》(マザー・テレサ)でした。また「児童養護施設で暮らす子どもは、全国約2万5千人。その65%が虐待を受けた経験

がある」(厚生労働省)が示す通り、社会的養育の重要性を痛感しました。

賛育会(1918年、東大YMCAが創立)は、キリスト教の精神「隣人愛」に基づき、困窮する母子の保護・保健、救療を目的として創立された団体です。賛育会病院は産婦人科・新生児小児科やNICU(新生児集中治療室)、更には緩和ケア病棟もあり、人々の命と人生に寄り添っています。興望館と賛育会の共通項は「ボランティアスピリット」であり、活動領域は異なれど、人々の日常に仕える地域密着型の福祉・医療・保健団体であることです。

賛育会が100年を超えて、原点に立ち返りつつ新たに取り組もうとする「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」(担当事務局 大江)の背景には、現代社会の縮図といえるような、貧困や虐待・DV、家庭崩壊や孤立等、大変深刻な問題があります。

悲劇は海外の紛争地や被災地だけではなくありません。日本では「子どもの7人に1人が

貧困に苦しみ、ひとり親家庭の2人に1人が貧困状態」という相対的な貧困が深刻化しています。身近なところで、愛に飢え、居場所なく、孤独に震える子ども達がいまいます。孤立する女性(母)がいまいます。あたり前の日常を奪う力は、私達のすぐ隣にもあります。子ども達をSOSから救い、様々な困難に満ちた社会を変えなければいけません。一刻も早く。

私達は《微力》ではあっても、決して《無力》ではありません。Think Globally, Act Locally。— やややかであっても自分にできることに取り組みたいと思います。1人が2人になり、3人に繋がっていく時、何かを変える力が生まれます。《私達は、大きなことはできません。小さなことを愛をもって行っただけです》(マザー・テレサ)。たとえ小さな働きであっても、一人ひとりの命と痛みを「隣人」として寄り添うこと、共に生きる日々、そして平和はそこからつくられていくのだ、と信じます。きっと。

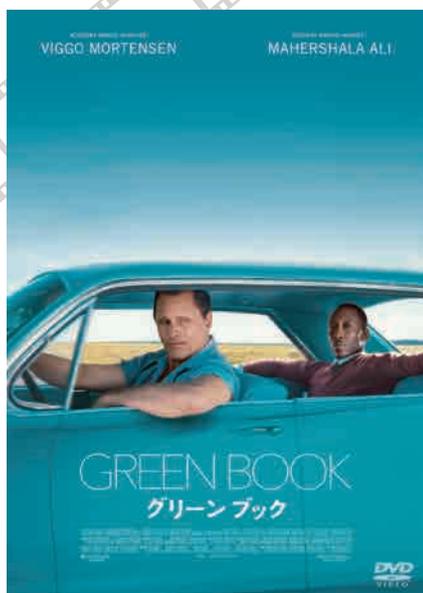


人種差別への静かな闘いと相互理解と 『グリーンブック』

瀧澤利行(茨城大学教育学部教授)

第91回のアカデミー賞作品賞を受賞した、実話にもとづく映画である(2018年/アメリカ/監督:ピーター・ファレリー、脚本:ニック・ヴァレロンガ他)。人種差別を描いた映画は多くあるが、主人公の2人の人種差別に関しての認識のズレと相互理解が巧みに描かれたと思われる秀作である。

今からほぼ60年前のアメリカ、合衆国南部の人種差別を濃厚に含む州法「ジム・クロウ法」(1876年〜1964年)が施行されていた南部諸



『グリーンブック』

ブルーレイ: ¥2,200 (税込)

DVD: ¥1,257 (税込)

発売・販売元: ギャガ / 2021年8月4日発売

(C) 2019 UNIVERSAL STUDIOS AND STORYTELLER DISTRIBUTION CO., LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

もつ天才ピアニストシャーリー(マハーシャラ・アリ)であり、最初の面接では、意見が合わずに「破談」になったかにみえたが、シャーリーはトニーの妻ドリスに夫をクリスマスまでには帰すことを条件に

8週間借りてよいかと直接電話することで「採用」の意向を伝える。こうしてトニーとシャーリー、そしてシャーリーとトリオを組むチェリストのオレグ、ベース担当のジョージの4人による人種差別の激しい南部での演奏旅行が始まる。

何事につけ喧嘩っ早く、がさつなトニーと、高い教養・学識から品格高い行動をもとめるシャーリーとは当初なかなか相容れない。彼らが手にするのは『グリーンブック』、正式名称は「黒人ドライバーのためのグリーンブック」という実在のガイドブックである。これをもつ4人は演奏旅行をするのだが、白人の3人は白人用のホテルに泊まるが、1人シャーリーはグリーンブックに載っている場末のモーテルのよう

なホテルに泊まらざるを得ない。シャーリーの演奏を絶賛する各地のリサイタルの主催者もシャーリーが演奏前に小用を足したいという敷地の隅にある掘っ立て小屋のような「厠」を指差し、「あちらで」と控えめに、しかし譲ることなくいう。トニーは、少しの我慢だとシャーリーに忍耐を説くが、トニーには敢えてシャーリーがそうしたトラブルを起こしているように思える。そんなときオレグはトニーに、シャーリーは北部なら3倍のギャラで振るような仕事があるのにもかかわらず、シャーリーは敢えて南部で弾くことを選んで

いるのだという。そんな日々を過ごすうちに、トニーとシャーリーの間には雇用者と運転手という関係を越えた友情に似た感覚が芽生えてくる。

ツアーも終了間近になり、ホテルのレストランでの人種差別に堪えかねてシャーリーは演奏をボイコットし、黒人専用のパブで食事を取りがてら、ピアノを弾き喝采を受ける。そして、雪の中、クリスマス間に合うように帰宅することになる。

この映画のもとになった実話部分に関しては、実際のシャーリーの親族と、トニーの息子で脚本と制作にも携わったニック・ヴァレロンガとの間でシャーリーとトニーの関係について論争があるなど、映画とは異なる面があることは指摘されているところであるが、シャーリーとトニーが同じ2013年に3か月ほどの違いで世を去ったという数奇な事実を知るとき、観る側は2人の絆を信じずにはいられない。

この映画を通して、南部アメリカの人種差別がいかに激しく理不尽であったかを知るとともに、これに敢えてそして静かな闘いを挑んだシャーリーと、その姿に触発されながら人間としての真実のあり方を再認識するトニーの姿は見る者の心を打たずにはおかない。所詮白人目線であるといった批判もあるが、その点を考える上でも一見してほしい一本である。

いのちやくらしを災害から守るために

一般社団法人 災害協働サポート東京 福田信章



■災害の現場にて

被災者の言葉で忘れられないものがいくつかあります。

仮設住宅に住む独居の高齢女性からこんなことを言われたことがあります。「被災する前から人が訪ねてくることなんてほとんどなかった。ボランティアとしてあなたが定期的に訪ねてくれるのは嬉しい。でも、わたしと同じようにあなたの訪問を待っている人は、あなたのすぐそばにもいるはず。地元に戻ってわたしのようには誰かが訪ねてくるのを待っている人のそばにいてあげて」。大学を休学して支援活動を続けようかと迷っていたわたしにとってその言葉は鮮烈でした。被災地にはたくさん課題がありますが、それと同じように日々の生活の中にも課題はたくさんあると認識させられました。そして、日常の取り組みの大切さを教えられたような気がしています。1995年の阪神・淡路大震災の現場でのことです。

被災しながらも地域の復旧・復興のために尽力していた自治会長からこんなことを言われたことが

あります。「何とか地域の人たちが元気になるように頑張ってくださいけれども、本当は体も心も辛くて仕方ないんだ。少しだけ弱音を言っていていいか」。被災2週間後の炊き出しイベントの時のことです。会長は疲労のため顔の半分がマヒした状態でした。体調を崩していく会長と毎日顔を合わせながら、それを「仕方ない」と判断しながら支援活動のコーディネートションをしていたことに気づき、被災者支援とは何なのか、を考えるきっかけとなりました。

2004年の新潟県中越地震の現場でのことです。4年半の避難生活から、生活環境が整ったとはいえない故郷に帰島した島民からこんなことを言われたことがあります。「無理をお願いしてしまっただけに申し訳ない。あなたたちがわたしたち島民を一生懸命考えてくれていることがわかっただけでも明日からもう少し頑張れる」。実は困りごと(非ニーズ)に答えられなかったことを伝えた時の言葉です。被災者の課題解決のために頑張ると思

行っていた支援活動ですが、課題解決をただ考えるだけでは被災者への支援活動は不十分だと教えられた言葉でした。2005年の三宅島噴火災害の帰島支援活動の現場でのことです。

中学生の時、母親を津波に流されてしまった専門学校生からこんなことを言われたことがあります。「東京で高校生や大学生を前に話をする機会があったら伝えてほしいことがあるんです。それは、親を大切にしたいということ。わたしはあの日の朝、お母さんと喧嘩をしまして、仲直りしないで学校に行ってしまった。本当に後悔してる。本当に上手いってないなら仕方ないかもしれないけど、家族はなるべく大切にしたい」。話してくれた彼女に出会ったのは津波から間もない頃。この話をしてくれたのはその4年後。その間の彼女の心持ちを考えると本当にいたたまれない気持ちになると同時に、災害によって突然命が奪われてしまう遺族の気持ちを考えさせられました。東日本大震災の現場でのことです。

■経験に基づき気づきを未来に

被災された方々と交流する中で、わたしたちはたくさん

に気づかされてきたような気がします。それは支援活動や交流活動に関わった者が被災地の現場で経験する中で、です。残念ながらデータや数字で表されるものではないため、必ずしも次の災害に教訓として生かされていけないものが多いかもしれません。でも、大切なことのような気がしています。

「市民協働東京憲章」は、データや数字では表せないそんな経験に基づき被災地での気づきを大切にしていきます。個人の経験を社会の経験に、個人の気づきを社会の気づきにしていくことで、次の災害に備えるヒントになるのではないかと考えているからです。そんなに簡単なことではないことは十分承知しているつもりです。それでも多くの仲間と経験を共有しながら作成した、この「市民協働東京憲章」を大切にしていきたいと思えます。災害によって奪われるいのちが少なくなるように、災害によって壊されるくらしが少なくなるように。そして、被災者の悲しい気持ちを、支援者の悔しい気持ちを、次の被災地でなるべく少なくするように。

ネットワーク

本誌のバックナンバーは
右記からご覧ください。



～本誌383号より～

読者の声



読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

◆表紙、表紙のことば

- ・普通の街に見える何気ない光景の中に、ところどころに不思議な生き物がいる感じが可愛い。
- ・新学期が始まり通学の様子が「おはよう」と声を掛け合い微笑ましく幸せな気持ちにさせていただいた。

◆【特集】川は地域のたからもの ～川と市民活動～

- ・素晴らしい記事内容と思いました。記事中に良いフレーズがたくさんあり、見出しになっていないことを残念に思います。例えば「ごみを拾った人はごみを捨てない」といったワードは胸を打たれました。人は見出しで記事への興味を深めます。
- ・砧・多摩川あそび村での取り組みをみて、昔遊びに来ていた子どもたちが大人になり、お手伝いしているという、支援の受け手が担い手になっていて素敵だと思いました。また、大人として子どもたちの学び・遊びの場を無くしてはならないと改めて感じました。
- ・水路全般の「開渠かいきょ」と言われる知名度の高い大きな川はたくさんあるが「暗渠」と呼ばれる蓋をした川には興味を感じた。

◆思い立ったがボラロ

- ・「お腹も心も満たす、ごはんの支援」
- ・フードドライブが具体的にどのような活動なのか知りませんでした。
- ・同様の支援活動に、ボランティアとして数年間参加していることから、とても親近感を抱いた記事であった。

◆TVAC News 東京憲章

- ・災害に備えて日常の訓練や研修は非常に大事なことです。まずは身近な町内会の防災訓練に参加してみたいと思います。

◆いいものみいつけた!

- ・ふれあい満点市場
- ・ハンドメイドのグッズや作品は愛情が伝わってきます。ボランティアセンターに行った際には購入したいと思います。

◆つばやきブレイク

- ・近くに偉人ゆかりの地がこれほどあるとは知りませんでした。経験を重ねた今、もう一度偉人の人生を垣間見ると、子どもときとは違う印象を受けるかもしれないと思いました。

お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。



本誌で使用しているQRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<https://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

利用

会議室	会議室A・B(各40人)・C(15人)	無料
	※会議室AB通し(80人)	
貸出機材	印刷機(2台)紙持ち込み、点字プリンター 他	
申込み	4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)	

情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。<http://www.tvac.or.jp/>

開所時間

*ホームページでご確認ください。

火曜日～土曜日：9時～21時 / 日曜日：9時～17時
(月・祝祭日・年末年始除く)

交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b) 飯田橋駅下車

ネットワーク

発行人 山崎美貴子

編集委員 上杉貴雅(メイクスマイル/オレンジフラッグ)

江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)

片岡紀子(患者スピーカーバンク)

亀川悠太郎(葛飾区社会福祉協議会)

小池良実(岡さんのいえTOMO)

長畑 洋(TDU-豊野大学)

中原美香(NPOLISク・マネジメント・オフィス)

野村美奈(武蔵野会 リアン文京)

室田信一(東京都立大学)

TVACの公式ソーシャルメディア



編集・発行：東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階
TEL：03-3235-1171 FAX：03-3235-0050
E-mail：nw@tvac.or.jp

印刷：島津印刷(株)

デザイン：東京ボランティア・市民活動センター/島津印刷(株)

表紙イラスト：フローラル信子

2023年6月20日発行(通巻No.384)

ISBN 978- 4-909393-49-4 C2036

定価400円(本体364円+税10%)

本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。



1 0 0 1 1 1 0 1 0

作り手インタビュー



ひとつひとつの工程に様々な人が手をかけて、かたちになる『いいもの』。制作にまつわるお話をうかがいました。

中学数学学習用語集&中学理科学習用語集

認定NPO法人多文化共生センター東京

—いま、授業中なのですが、「たぶんかフリースクール」について教えてください。

中学までの勉強を終えたあと、外国から日本に来て、高校進学を望む人が勉強する場として2005年に開校しました。授業は火曜日から金曜日の10時～15時半までで、1～3時間目は日本語、4～5時間目は数学と英語を1日おきに勉強しています。今年度は中国、フィリピン、タイ、ネパール、ミャンマー、アフガニスタン、ニカラグア、モンゴル、バングラデシュにルーツを持つ生徒が勉強しています。

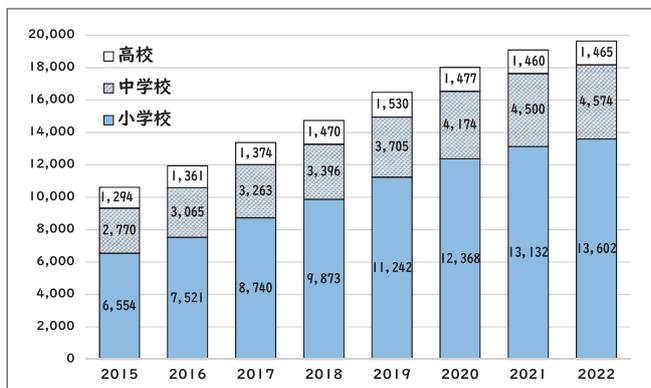
—^{ほぎき} 梶木さんや小森さんも、この学習用語集を使って数学を教えているんですね。

はい。会話で使う日本語と学習で使う日本語には違いがあります。学習用語がわかれば問題を解くことができる生徒も多くいて、この用語集を頼りに学んで成績がのびていくのを目の当たりにすると、これは良い本だなあと思います。自画自賛ですが(笑)。冊子の形にしているのは中国語と英語です。数学はタイ語、ベトナム語、ポルトガル語も含めた5カ国語を作りました。当団体のホームページから無料でダウンロードが可能です。

—教えながら、いろんな工夫をして作られた用語集なのですね。

2007年に数学を教える先生たちが、ホチキス留めのプリントで作ったのが最初でした。当時はA4横長の中国語と英語を併記したものでした。まず必要な用語の日本語のリストを作り、そこに訳文を入れて翻訳のレイアウトをしました。フォントを工夫したり、著作権フリーの図を探し、適当な図がない時は自分たちで描いたりしました。

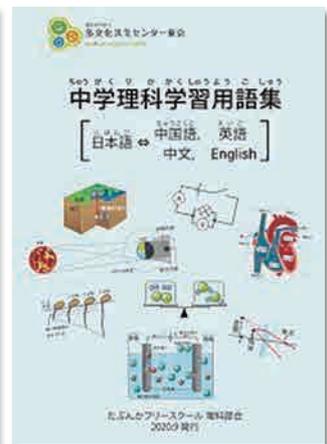
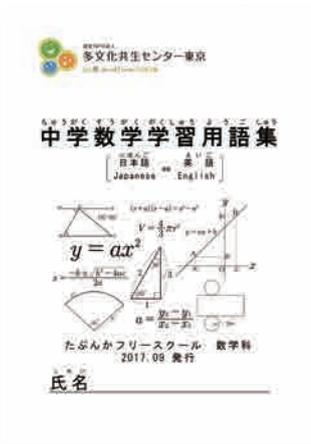
理科の用語集は、冊子の形で作成する際には、元・中学校の理科の先生が学習指導要領をチェックし、私たちが作成した原案に加筆修正してくださいました。先生方が得意な分野を持ち寄り、また理系に強い学習ボランティアさんにもご参加いただくなど、多くの方のご協力を得ました。言語数の多い数学の用語集を作る時には、卒業生の存在も大きな力でした。タイ語の翻訳をしてくれた卒業生は、帰国の際に自分が使っていたタイの教科書を持って帰ってくれたり、日本にあるタイのお寺を訪れて言葉の確認をしたりするなどしてくれました。卒業生たちが後輩たちのために協力をしてくれたことは、私たちにとって本当にうれしいことです。



外国籍児童生徒数(東京都、公立小・中・高)
東京都教育委員会「令和4年度学校基本調査」より作成



梶木典子さん(左)と小森律子さん(右)。インタビューの間、フロアは授業を受ける子どもたちの声に包まれていました。



いいもの みい~つけた!

このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。

Vol. 43

左：[中学数学学習用語集] 右：[中学理科学習用語集]
A5版／1冊600円(郵送の場合は800円)

多言語でサポート 中学数学・理科学習用語集

多文化共生センター東京は国籍や言語・文化の違いをお互いに尊重する社会をめざし、外国にルーツを持つ生徒と家族のための教育事業を行う認定NPO法人です。毎日通える場として荒川区と杉並区で「たぶんかフリースクール」を開講し、学齢超過や母国で中学を卒業した生徒たちが、高校進学をめざして日本語や教科を学習しています。また、荒川区と協働で「ハートフル日本語適応指導事業」として、区立小・中学校に編入した子どもたちの日本語初期指導を行っています。土曜日には多くのボランティアが参加し、日本語力が十分ではない状況で来日した児童・生徒の学習を支援しています。

今後、外国にルーツを持つ子どもの数はさらに増えると考えられます。彼らも社会の一員として共に地域を創っていけるよう、これからもサポートを続けていきます。

ご紹介する冊子は、児童・生徒の学習にかぎらず、高校の先生や教育委員会、企業からもご注文いただいています。ぜひ、様々な場面でご活用ください。

数学の基礎、小学校の復習

用語・記号	用語・説明 [Thi du・Giải thích]
1. たす(たし算・加法) [V: (phép cộng)] 記号: +	例] $12 + 3 = 15$ [読み方] いふたす さん は いふ
2. 和 [V: tổng]	たし算の答え
3. ひく(ひき算・減法) [V: (phép trừ)] 記号: -	例] $18 - 7 = 11$ [読み方] いふひく せふ は いふ
4. 差 [V: hiệu]	ひき算の答え
5. かける(かけ算・乗法) [V: (phép nhân)] 記号: ×	例] $10 \times 4 = 40$ [読み方] いふかける じゅう は いふ

数学の基礎
小学校の復習
小学校の算数レベルが身につけていない生徒も多いため、このページを加えました。[中学数学学習用語集]から

答え方の注意事項

同じ数字でも、国によって書き方が違います。せっかく導いた正しい答えが、バツになるのは悲しいです。手書きの文字には先生の想いが込められています。[中学数学学習用語集]から

7. ×とされる例
(1) 数字の「6」「7」「9」の書き方に特に注意!!

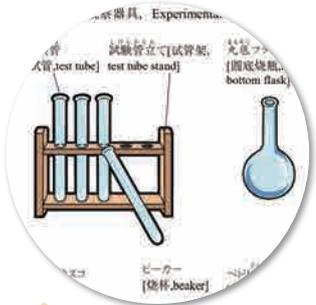
6と書いたつもりが「b」と間違えられる。→ **6** または **6**

7と書いたつもりが「1」と間違えられる。→ **7**

9と書いたつもりが「g」が「9」と間違えられる。→ **9** **エックス**

(2) カタカナの「ア」の書き方に注意!!

アと書いたつもりが「ア」が「ア」と間違えられる。→ **ア**



[中学理科学習用語集]から

無料の素材をつかってイラストを作りました。矢印の始点や太さ、電気やイオンが生じる様子などを工夫しました。

認定NPO法人多文化共生センター東京

所在地 〒116-0002 東京都荒川区荒川3丁目74-6
メゾン荒川Ⅱ 201号

TEL・FAX 03-6807-7937

E-mail info@tabunka.or.jp

HP https://tabunka.or.jp/



<HP>



<Facebook>



<Twitter>

(公財) SOMPO福祉財団

2023年度主な助成金の募集(公募)

社会福祉分野で活躍するNPOへの助成などを通じて、
地域福祉の向上に貢献することを目指しています。

事業名 (募集時期)	事業の内容	対象となる団体 募集地域・助成金額
自動車購入費助成 (6/1～7/7)	自動車を購入する際の資金を助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人 ・ 東日本地区に所在する団体 (2022年度は西日本地区) ・ 1件150万円上限(総額1,500万円)
NPO基盤強化資金助成 住民参加型福祉活動資金助成 (6/1～7/14)	地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5人以上で活動する営利を目的としない法人格のない団体 ・ 西日本地区 (2022年度は東日本地区) ・ 1団体30万円上限(総額450万円)
NPO基盤強化資金助成 組織および事業活動の強化資金助成 (9月～10月上旬予定)	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・ 西日本地区に所在する団体 (2022年度は東日本地区) ・ 1団体70万円(総額1,000万円)
NPO基盤強化資金助成 認定NPO法人取得資金の助成 (9月～10月上旬予定)	認定NPO法人の取得に必要な資金を助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定NPO法人の取得を目指す社会福祉分野の特定非営利活動法人 ・ 日本全国 ・ 1団体30万円(総額300万円)



【自動車購入費助成】

長い距離も
新しい自動車
で送迎が楽しみ♪



【組織および事業活動の強化資金助成】

業務の
システム化で
地域子育て支援も
拡大!

大好評!
若者による
高齢者
スマホ教室♪



【住民参加型福祉活動資金助成】

パラスポーツ体験で
ダイバーシティ&
インクルージョンの
取り組み



【認定NPO法人取得資金助成】

SOMPO福祉財団Web ⇒ <https://www.sompo-wf.org/>